

生徒： こんにちは。今日はお時間をとって下さりありがとうございます。それではインタビューを始めさせていただきます。

宜しくお願い致します。

私がWFPに興味を持った理由は、テレビやインターネットを見て赤いカップが印象に残ったからです。それを調べてみるとWFPのレッドカップでした。私はその中の給食支援に感動しました。それは、提供するだけでなく、自立できるようにすると言う事に感動しました。

まずは、レッドカップについてお聞きします。

☆レッドカップは給食支援ということですが、レッドカップが始まったきっかけはどのようなことですか？

WFP：そもそも学校給食支援じたいは始まっていたのですが、食器すら無い地域もあったんです。そういったところで何か安価で構わないから給食を配布できる食器が欲しいと言う事で目についたのがプラスチックカップだったんですね。

それを使って後ろのポスターを見ていただくと分かる通り、例えばあの「CSB おかゆ」と言うようなものを配布しているんです。それは、トウモロコシの粉と大豆の粉を混ぜてお湯で溶きそこに栄養を添加して作ったおかゆのようなものなんです。それを入れるのに、プラスチックのカップがちょうど良く、たまたまそれが赤いカップだったんです。それを国連WFPの職員が視察で見た時にすごく印象的だった事と、どうにかしてとりあえず食料を届けたいといった思いの表れということで、それ以来レッドカップを学校給食で配布の時に使っています。ただ、今現在はアフリカの一部地域のみでレッドカップを使って配給は行われていますが、他の地域ではその場所で入手可能な食器などを使って配布をまだ続けています。

生徒：☆赤いカップは「希望の象徴」と言われていますが、その由来を教えてください。

WFP：先ほど笠原さんがおっしゃった通り、学校給食はただ食料を配給するだけではないんですね。学校給食を出すことによって、実は貧しく子供を労働力として見ているようなエリアでは親にとって学校給食が無料で提供されると子供の食費、もしくはその一食分を抑えることができるということで学校に通わせるきっかけになり、教育を受ける子供が増えれば増えるほどその社会や国の発展につながっていくということで、そもそも飢餓の原因の一つに貧困があるんですけども、貧困と教育の普及というのは密接に結びついていますので、もっと多くの子供が教育を受ける機会が増えれば貧困を解決でき、その国の将来の発展につながるという

ことで学校給食は「希望の象徴」と言われているということです。

生徒： 次にWFP全体について伺います。

☆なぜ、協会の場所が横浜なのですか？何か理由があったら教えてください。

WFP： 私達国連WFPという時に2つの組織を総称して言っているんですけども、国連の一機関である国際連合世界食糧計画WFPの本部がローマにあり、日本事務所を設立するにあたって横浜市が是非国際機関に来て欲しいということで誘致をWFPに対してしたということで、ここにまず最初に1996年10月に日本事務所が設立されたんです。で、日本事務所と市民団体が連携して活動を行っていたんですけども、その後やっぱりもっと民間の支援が重要ということで私達協会、NPO法人が設立されて民間支援、企業ですとか、一般個人の方からの支援窓口を特化して行うことになり、もちろん広報活動などで協力しながら日本国内での寄付集めを行っている、そう言った運びで一緒に横浜に存在しているようになったということです。

生徒： ☆WFPの組織についてですが、募金が集まってからどのようなルートで支援が行き渡るのですか？

WFP： まず協会は、一般企業、一般個人からご寄付をいただき、年4回位に分けてその時最も必要とされているであろうプロジェクトや国を指定してローマ本部にお金を送っています。そのローマ本部を通して現地のプロジェクトにお金が行くようになっていきます。

生徒： ☆現在の日本、世界での活動状況を教えてください。

WFP： 国連WFPの活動資金は各国政府の任意の拠出金及び企業団体、個人からの寄付でまかなわれています。日本事務所は政府対応、協会は民間からの支援窓口としています。企業、団体、個人から寄せられたご寄付から2016年は8億円以上ローマ本部へ送金いたしました。世界の活動状況ですが、およそ80ヶ国以上で活動してまして支援数も8000万人近くを支援しております。2016年実績では、82ヶ国8千220万人、350万トンの食糧を支援しました。

生徒： ☆年間日本ではどの位の寄付が集まりますか？

WFP： 去年の寄付金総額10億9981万3千6百3円を集めております。そのうち経費を25%以内に収めるという決まりですので、それを除き寄付金総額のうち76%の8億3470万1千8百96円をローマ本部に送金しております。

生徒： ☆今、何が必要とされていますか？

WF P : 9月中旬に、新しい飢餓人口と言うものが発表されて、近年飢餓人口は減少を続けていて、2016年は7億9500万人になっていったんです。ところが、最新の情報では、飢餓人口が増えてしまって8億1500万人とされています。この増えてしまった要因というのが、紛争と気候変動です。例えば、今シリアやイエメンでは紛争がまだまだ続いています。そう言ったところに対する知識ですとか、関心、もちろんそこに支援するためのお金というものもまだまだ必要とされています。まだ世界では、紛争や気候変動などによって飢餓で苦しむ人、食べられない人がいるという事実を知っていくこと、関心を持つことが大事だと思います。

生徒 : ☆WF Pのボランティアは18歳以上とかいてありましたが、高校生でも出来ることは、募金やレッドカップの販売以外にありますか？また、高校生に求めることがあれば教えてください。

WF P : 募金活動とか、レッドカップ販売というのも実はすごく大きな支援になるんですよ。というのもただ単にお金を集めるだけでなくレッドカップを買ってくれた人に、例えばどうゆうことがあってこのレッドカップを販売しているのか、どうゆう問題があってこれを販売する必要があるのか、ということ伝えることにつながります。また他校の例をあげると、文化祭などでチャリティークッキーを作ってくださいってそれを売ってその売上を寄付してくださるとか、そういった活動を通して高校生でも支援出来ると思いますし、こうやって今日お二人に来ていただいて国連WF Pのことですとか、世界の食糧問題について知っていただいたことを校内で発表するのとても大きな助けになります、なかなか遠くに行ったりお話をする機会が無いんですよ。そう言ったところで皆さんが関心を持ってお話を聞きに来てくれて、それを他の人に伝えてくれるっていうのはとても大きな助けになります。

生徒 : ☆私達の学校と協同して何か出来ないかと考えています。それは可能ですか？

WF P : 皆さんのアイデア次第という感じですね。例えば依頼があれば講演なども行くことは可能ですし、皆さんで自主的に企画をしていただいて先生と交渉していただいてそのうえで私達にできることを逆に教えていただいて何でもできると思います。

生徒 : ☆協会のスタッフになるにはどうすればよいのですか？

WF P : 私の一例ですが、高校生の時から何となく国際協力とか海外に興味があったんですね。大学に入って国際協力などを勉強していたのですが、まだ国連WF Pのことは知らなくて何となく国際協力とかしたいな、とか、そういった関係の仕事に

就ければとは考えていたんです。そこで大体こういった機関って職歴3年が最低条件だったりするものですから、とりあえず一般企業で3年働いていて、3年位経った時に何か国際協力できないかなと考えて、もちろん現地のボランティアに行くこともすごく大事だと思いますし、その現地で活躍するっていうことも選択肢の一つではあると思うんですけども、まだ自分の中でどんな専門性があるかというのを考えていた段階だったので何か出来ることはないかと考えた時にちょうどNPOなどで日本国内でまだまだ認知の低い問題とか世界に目をむけてもらうような活動が出来ればそれもまた大事な国際協力の1つだな、と思って私はここに応募したんですね。なのでこの協会のスタッフになるっていうことは特に何かその特別なものが必要なのではなくて、例えばその、既に皆さん今ある様な世界の食料問題に関する関心ですとか国際協力に対する興味を持ちつついていればここに限らず国際協力の仕事に就けるのではないかと思います。

生徒：☆何か他に広めたり、伝えたい事があればお願いします。

WFP：こうやって本日皆さんにお越しいただいてすごくありがたいと思いますし、今後もどんどん続けていって学校の伝統のような形にしていただければ本当に素晴らしいことだと思っています。そのためにももちろん私達も日常情報発信というところは、注力しているんです。というのも、やはり日本のテレビ報道とか新聞報道ってどうしても世界の問題に関してはまだまだ情報が少ないんですよ。例えば「飢餓人口もふえました。」って本当はすごく大きいニュースのはずなんです。7億人から8億人ってこんなに技術が進歩しているのにまだまだ餓えている人がいる、そしてそれが増えているって本当は大きなニュースのはずなのになかなかテレビとかで放送された回数ですとか、皆さんにひろまったっていう感じはまだまだ低いと思います。ご紹介はしているんですけども、そもそもWFPのホームページに見に来て下さる人も限られていますので、今後皆さんにそういったところもテレビとかニュース、新聞だけではなくて私達の情報サイトから直接情報をとってもらってそれを広めていっていただければ大変嬉しいなと思っています。